

新規学卒入職看護師のリアリティ・ショック構成因子の検討

—KH Coder によるグループインタビュー分析—

Examination of the constituent factors of Reality Shock of new graduated nurses.

高藤 裕美

Hiromi Takafuji

東京大学大学院 教育学研究科

Graduate School of Education, The University of Tokyo

Key words: reality shock, 看護, KH Coder

目的

近年、ヒューマン・サービス職の若年就業者の離職に関わる要因として、リアリティ・ショック（以下RS）が注目される。RSは「新人が本格的な仕事に就いた際の、期待と現実の差が生み出すストレス（Kramer, 1974）」などと定義される概念で、主に看護や保育、教職などのヒューマン・サービスの各領域で研究が重ねられる。これらの研究知見は各々の職業的要因を最大限考慮するものであり、結果として、統一性が不足していると言える（e.g., 松浦ら, 2020）。本研究は、複数の領域の先行研究の知見を軸に、看護師らのリアリティ・ショック経験の質的内容分析を行うものである。具体的な語りの奥にある原理を追求することを通じ、「ヒューマン・サービス職」の職業的特性に由来する、適用可能性の高いリアリティ・ショック構成因子を明らかにすることを目的とする。

方法

調査対象者 現役看護師4名と元看護師3名の7名（平均年齢34.3, $SD=4.5$ ）。全員新規学卒入職者であった。

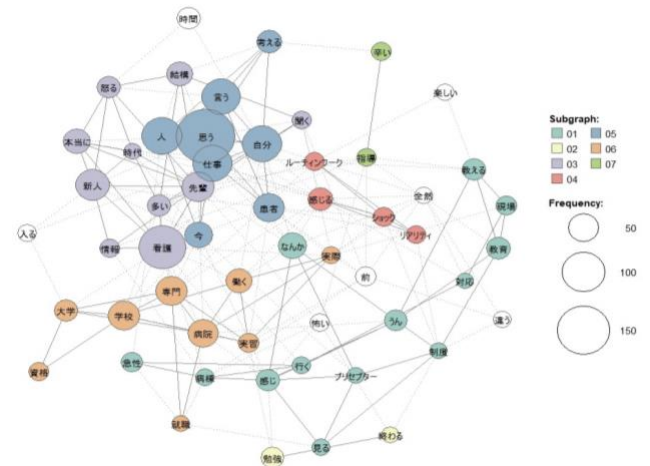
調査 先行研究のリアリティ・ショック分類項目（e.g., 松浦ら, 2020）から作成されたガイドを用い、新人時代を想起することを促す形式で、2時間のオンライン・フォーカスグループインタビュー（FGI）を実施した。

分析 樋口（2020）が開発したKH Coder3を用い定量的内容分析を実施した。主な分析として出現頻度の高い語の抽出、デンドログラム生成によるクラスター分析、共起ネットワークによる出現パターンの視覚化を行った。

結果

FGIの逐語データは1,261文、総抽出語数21,225、異なり語数は1,501と、議論が活発に行われた様子が窺える分量で、否定助動詞の「ない」が最頻出語の一つであったことが本データの特徴である（70回）。「技術がない」「居た堪れない」「知識がなく声かけさえできない」など、RSを特徴づける経験を語る文脈や否定構文として抽出された。全抽出語の出現パターンのクラスター解析から、データは以下の8クラスターに分類された。1. 入職前の専門教育、2. 入職後の新人教育制度、3. 入職時の経験、4. 対人業務における苦痛やショック、5. 急変時や

未経験の応用的な仕事の困難さ、6. 先輩看護師の指導による傷つき、7. 新人という立場で感じる居た堪れなさ、8. ルーティンワークへの期待はずれ感、である。また以下に示す共起ネットワークの出力結果では、自己の内省と教育制度の話題に距離があること、先輩からの指導の辛さと仕事、新人の立場の話題は近い距離にあること、教育と指導は別の文脈で語られていたことなどが、視覚化されることにより、明らかになった。



考察

本研究の結果、ヒューマン・サービス職の職務上の特徴に由来するRS経験は、大きく分類して【専門性に対する疑念】【対人業務におけるネガティブな経験】【組織制度】【応用的職務】【先輩からの指導】の5因子から構成されることが示唆された。これらの因子を観測可能な項目を作成することで、ヒューマン・サービス職のRSについて、職種を問うことなく、数量化し立体的に捉えることが可能になると考える。

参考文献

樋口耕一（2020）社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して 第2版 ナカニシヤ出版
Kramer (1974) Reality shock — why nurse leave nursing-, C, V, Mosby.
松浦美晴・上地玲子・岡本響子・皆川順・岩永誠（2020）. 保育士リアリティ・ショック尺度の作成 保育学研究, 58(2-3), 143-154.